

NPO 法人

第75号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578  
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## 『輪かんじきづくり』を終えて

芦安中学校 環境整備委員長 田中 李奈

芦安ファンクラブでは、芦安中学校の生徒さんに芦安伝統の輪かんじきづくりを体験してもらおうという取り組みを昨年よりスタートさせました。今回は、体験してくれた、芦安中学校の田中さんからの感想です！

私にとって今年は2回目の輪かんじきづくりでした。最初の工程である枝を曲げる作業では、ヒノキの樹皮が厚くて「剥げないのではないか」、太い枝は曲げづらくて「折るんじゃないか」と、冷や冷やしました。それでも作業はスムーズに進み、午後3時すぎには作業を終えて、片付けまで行うことができました。



2回目の授業から、本格的に輪かんじきを作る作業に取りかかりました。一年ぶりのため、私自身は作り方を忘れてしまっていて、初めて取り組む一年生と同じような感覚でしたが、作業を進めるうちに思い出してきました。私は、輪かんじきの歯となる部分をつくる作業が、特に好きです。「どれくらい削るか？」など、調節は難しかっただけに、上手に作ることができたときは、すごく嬉しかったです。2回目の授業で、私たちのグループはかなり順調に作業が進み、仕上げの手前段階までいきました。



最終回の授業で仕上げの作業に入ったものの、太い枝と細い枝をうまく組み合わせることができず、かなり大変でした。さらに難しいと感じたのは、縄を巻く工程です。縄の巻き始めはなんとかなるものの、「次どうやって固定させるんだろう？」と迷い、支援者の方のやり方を見ても、なかなかわからず、細かく教えていただきました。完成した輪かんじきは少し割れてしまった部分もありますが、私としては、とても良い出来栄えだと思います。

支援者の皆様のおかげで、3月に卒業する5名分の輪かんじきをグループごとに完成させることができました。本当にありがとうございました。



- |           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 9/27 (金)  | 学校林整備(林業の学習会含む)<br>伐倒・運搬、輪かんじきヒノキ材確保 |
| 11/21 (木) | 支援者の方々による準備<br>作業① 枝の成型              |
| 11/28 (木) | 作業② 設計図をもとに加工                        |
| 12/2 (月)  | 作業③ 加工の続き～最終仕上げ                      |

# 夜叉神の祠に説明板設置!

## 芦安ファンクラブ 堀内 訓

皆さんは夜叉神峠に祠があることを知っていますか。鳳凰三山の登山口（夜叉神の森入り口）から約1時間の夜叉神峠、ここからの白根三山の景色に見とれて、うっかりすると祠に気が付かずに通り過ぎてしまっている人が多いのではないのでしょうか。夜叉神小屋から60メートルほど進んだところに祠があるのです。



もう、かれこれ10年は経つでしょうか。私はこの場所で、休日の親子登山教室で夜叉神の祟りの話を行いました。その光景は、ファンクラブのホームページにアップしていただいております。その写真を見ると、「私も若かったな。」と、つくづく思います。あっ、話を戻しましょう。



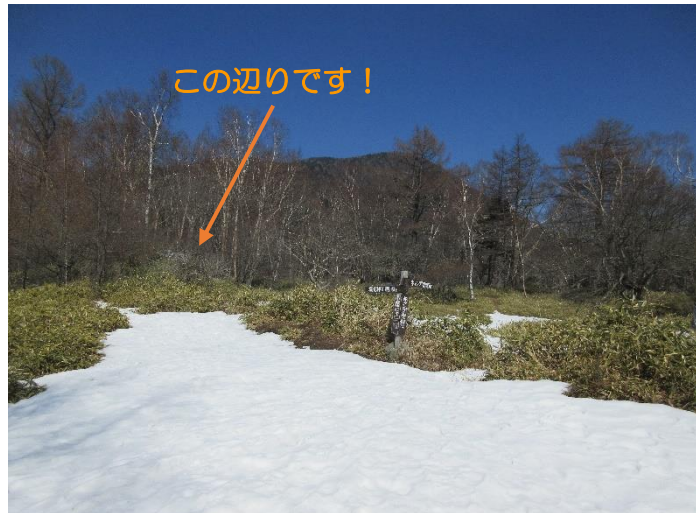
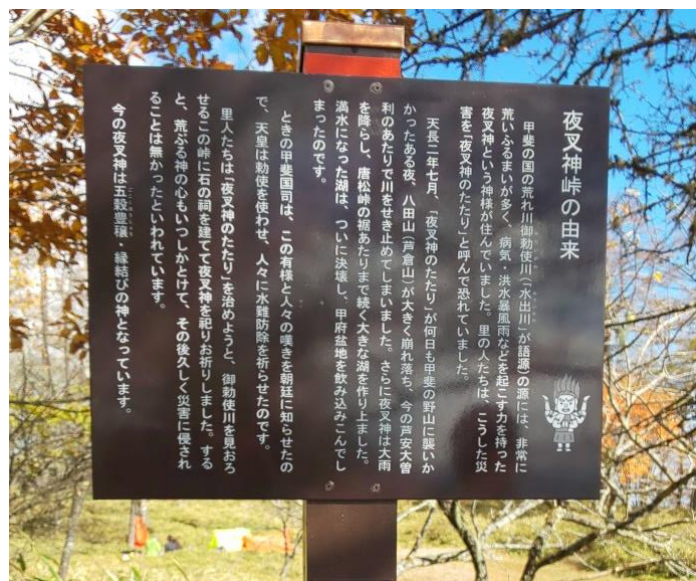
私が今勤務している芦安小学校では、地域教材として「芦安にかかわる伝承文化」を学びます。夜叉神の祟り、瀬戸千段の滝、芦安堰堤では先人が如何に水害と闘ってきたかを実際に現地に行き自分の目で確かめながら、知識を積み上げていきます。今年度も、3・4年生が実際に夜叉神峠に登山しました。祠の横でファンクラブの鈴木さんから「夜叉神の紙芝居」をしていただき学習を深めました。また、登山をしながらの植物の名前・鹿の食害学習やカエデの木への樹木プレート掛け、さらに、登山道から少し入ったところにある「炭焼き窯」では原木を窯に入れる体験をしてきました。そんな中、「夜叉神の神様」にはもっと大勢の人に知っていただきたいお話がある、どうかして大勢の人に知らせたいと思い、一念発起して説明版を設置しようと思ったことにしました。しかし、どこからどうしたらよいのかもわからずに困っているところに、ファンクラブや南アルプス市教育委員会・観光商工課・埋蔵文化課・ユネスコエコパーク室の大勢の皆様が快く協力していただきました。その甲斐があって、やっとの思いで、作製にこぎ着けられました。まったくもって、感謝、感謝です。



さて、設置の当日になりました。設置予定日は雨で延期、予備日は週間天気予報では夕方までは、雨にはならないはずでしたが、私が芦安に着いたとたん、ポタリ、ポタリと車のフロントガラスに無情の水滴。悔しいが、今日やらなければなりません。これ以上本降りにならないように祈っているところへ、車が2台到着しました。私が受け持っている小学3学年の2家族、兄弟も連れてきていただきました。賑やかに登山ができそう。ちょっと、気分が乗ってきたぞ。次は、ファンクラブの事務所駐車場へ。こちらにも、我がクラブの精鋭部隊が大拳して待っていてくれました。ああ、ありがたい、ありがたい。これで勇氣百倍。さあ、頑張ってお出陣だー！

前半調子に乗ってページ埋めをしたので、話は一気に峠へ飛びます。峠は小雨が降り、ちょっと寒い感じでしたが、小学生4名の鍬入れ式で作業の安全と設置看板を見て多くの人が夜叉神の伝承を知っていただけることを祈って作業開始となりました。積もった雪で遣られないように、頭上の木の枝の処理、設置場所の笹を払い、いよいよ標柱の穴掘りへ。鉄棒を打ち込み岩盤を崩し、スコップで土を掘り下げる。残った土は必殺「手掘り」。(ここは特に解説を入れておきます。「手掘り」とは、ファンクラブ小林さんの行う必殺技である。両膝を地面につけ、前のめりになって両手で勢いよく土を掻き出す技である。大変助かりました。)子供たちも石をたくさん運びました。これを標柱の周りに入れ、案内板を安定させるのです。子供たちも立派に一仕事を終えました。

子供たちは中学校に行くと、学校登山で鳳凰三山登山を行います。きっとその時、今日のことを思い出してくれるに違いありません。おっと、忘れてはいけなことがありました。みなさんも、鳳凰三山へ行くときには、この説明板を見て、芦安に伝わる夜叉神の伝承を読み返してください。



# 登山教室 参加者の皆さんより

2019.9.28~29 甲斐駒ヶ岳コース/栗沢山コース

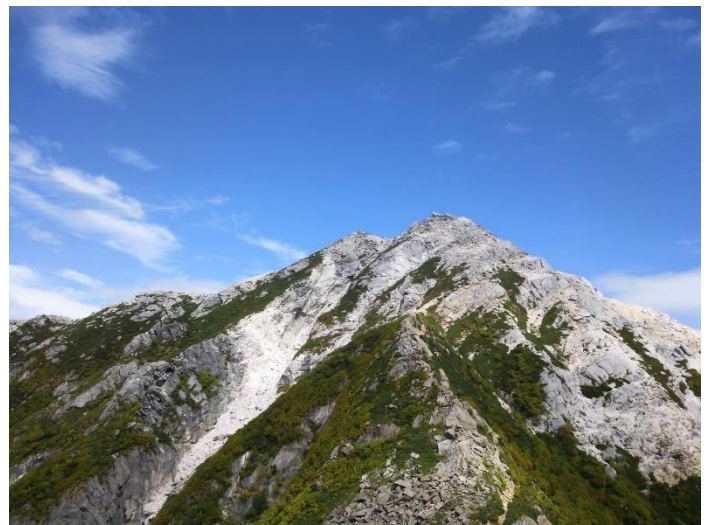
## 工藤 重治さん（静岡県島田市）

長衛小屋のいきさつ、有名な南アルプスの水 CM のちょっとした話を思い出す、木々と清らかな水の登り口と仙水小屋付近はまだ暗い。その先舞台は変わりホルンフェルスの岩塊を歩くと、ウィンドギャップ(風隙)のV字から摩利支天が垣間見えるようになる。上は雲がかかっているのが少し残念、晴れてくれないかなあ。さらにその先仙水峠では地藏ヶ岳のオベリスクが今度ははっきり見える。舞台は変わりハイマツ帯の中を駒津峰へグングン上り、その先六方石へ視界が一気に広がる。その稜線が気持ち良い。さらに舞台は変わり、頂上へと続く花崗岩の真砂土の巻道を歩く。ほら北岳が見える、仙丈が見える、鳳凰が見える。その先に、富士山が雲間に見え隠れする。ああ晴れてきた、清々しい気分。そして最後の舞台、黒戸尾根合流点からの上りで八ヶ岳が見え始める。はっきり見える。振り返れば摩利支天の向こうに栗沢山。そうして頂上では 360 度の展望、天気回復して景色が贅沢だ。この教室に参加して良かった。

でも来年は、頂上が南アルプス市ではないから仙丈ヶ岳になるのかもしれない、とガイドの望月さんの言う冗談がもし本気だとしたら、隔年で良いので

続けて欲しい。何故かって？昨年中止するほどの荒れた天候。今年は前日まで天候に気をもんだけれど晴れ。だから順番からすると来年はきっと雨。そしてその次は、きっと今年と同じかもっと晴れるに違いない甲斐駒に出会えると思うからです。

末尾ですが、ガイドしていただいた望月・石川・富山さん、長衛小屋のスタッフの皆さん、芦安山岳館スタッフの皆さん、素晴らしい登山教室をありがとうございます。来年も通います。

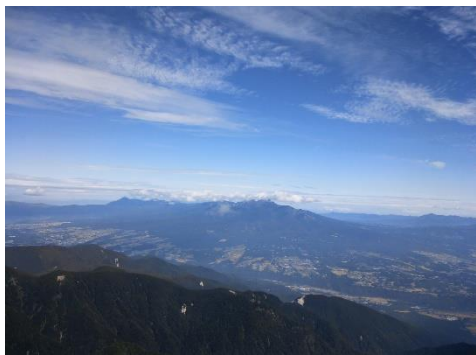


## 岩谷 孝人さん（山梨県昭和町）

今回の甲斐駒ヶ岳登山は、バス通りを少し入った長衛小屋で最近改築したような木の香りがただよふ山小屋が出発点でした。

甲斐駒ヶ岳登山は何度か計画をしたものの登る事ができず何年か見送ってきて、数日前の天気予報でも雨模様、高ぶりもあったがダメなら次回と懸命に歩き始めた。仙水峠までは来たこともありスイスイだったが、ガイドの方にここからが登山ですと言われ、そうだよなと私はつぶやいた。

仙水峠で一休み、霞んだ摩利支天を横目に駒津峰を目指して登り始めた。進む事に懸命だったせいか結構急な登りにも気が付かずに登っていた。いつもなら汗かきかき登る私はそこに無く、立ち止まれば少し寒いくらいで気温も味方してくれた様な気がした。二時間余りで駒津峰に到着した。仙水峠で見た時よりもはっきり摩利支天をとらえ、天候も良くなりつつ有るように思えた。今日についているような気持ちで駒津峰を後に頂上を目指した。



駒津峰から先は下り上り。阻むような大きい岩と根っこ、アップダウンを越えしばらく行くと白い山肌、甲斐駒ヶ岳本来の姿を足でとらえた。滑りやすい白い山肌を登り、すぐ目の前が頂上と思ったらまた大きい岩。手をのびして乗り越え、頂上。焦がれていた甲斐駒ヶ岳頂上。摩利支天が直ぐ目前下。天気も晴れて360度を見渡せる信じられない思いに茫然とし、満足感を胸にしばらく休み下りに入る。白い砂利石に足をとられない様気を配り下る。大きい岩のアップダウン。根っこにつまずかない様下る私は、下山の方が気を使い汗をかいた気がする。

20人以上の方が、けがもなく安全に甲斐駒ヶ岳を楽しむ事が出来た。サポートをしていただいた方々に感謝し、知り合えた方々と再会出来ることを思い家路についた。



### 浅田 栄さん（神奈川県相模原市）

中島ガイドさんと4名の参加者。早朝の静かなシラビソと苔の森の中をガイドさんの話を聞きながらゆっくり登る。仙水峠に近づくと視界が開け、フワフワの白いミヤマハナゴケや赤い苔桃の実に縁取られた不思議なガレ場に出会う。遠い昔は一枚岩だったという岩塊斜面だ。そして右側には昔、川だったという谷間を見て仙水峠へ至る。行き止まりの峠は、川ので山が崩れ落ちてしまったという大きな崖である。川が無くなった謎が解ける。

ここから大きな摩利支天を見上げながら、太古からの山の成り立ちの大きさを感じながら一休みする。そして右に折れ、岩場を息を切らせながら登る。真っ赤に紅葉したウラシマツツジに励まされながら山頂へ。頂上では空は晴れて甲斐駒ヶ岳、地藏岳のオベリスク、北岳や塩見岳南アルプスの山々の素晴らしい眺めでした。

下りは、岩場を抜けて樹林帯の尾根筋の道はとても涼しく、昼近くには長衛小屋へ帰りつきました。栗沢山は、変化に富んで眺望の素晴らしいところでした。中島さん、たくさんの楽しいお話をありがとうございました。また来年、登山教室に参加させていただきたいと思います。



### 永井 きみ江さん（東京都小金井市）

「栗沢山登山 ー初めての南アルプスー」

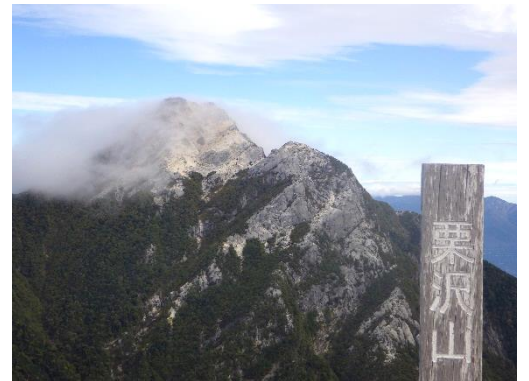
栗沢山登山は、感動の連続でした。

4人グループでしたが、初心者の私にとっては、学ぶものが多く有意義でした。宇多田ヒカルさんのCMの裏話や、南アルプス特有の地形の話なども聞けて、登山教室に参加して良かったと実感しました。

岩場を登っての頂上は、寒く風も強かったですが、周りの山々が見渡せ、天気予報を裏切る素晴らしさでした。

下山後、具合が悪くなり、同じグループの方にご心配をおかけして、申し訳なかったです。このような症状は3回目ですが、（過去に雲取山と大月の滝子山の下山後にも同様の症状）自分では、疲労によるものと思っていました。リーダーさんに、高山病では、と教えられ正露丸を頂きました。同行の方からは、良い漢方薬を教えてくださいました。今後は、登山は頂上の感動だけでなく、登って下りて完結するのだと肝に銘じて行動します。

来年の登山教室にも参加できるように、歩き続けていきます。



# 学校林整備作業

## 小中一貫校 芦安小中学校／芦安ファンクラブ 堀内 訓

9月27日（金）に、芦安小中学校児童生徒44名と保護者が参加して、学校林の整備作業が行われました。この学校林整備作業は今回で4回目になります。学校から5分ほど坂道を登ったところにあるので、春の自然観察会でも整備された学校林で学習が行われました。今回は、斎藤敬文さん・清水准一さん・五十川仁さんが指導をしてくださいました。

斎藤敬文さんからは、芦安地区から富士川（釜無川）に流れ込む「御勅使川」周辺の自然、特に植物の植生や材木を切り出してからの移送方法（ドビキ、シュラダシ、テッポウ）について、清水准一さん・五十川仁さんからは、間伐や間引きの重要性・安全な作業の方法（実際に工具を扱って）などを教えていただきました。

小学1年生以外は、去年も体験しているので慣れたもので、積極的に活動していました。初めはこわごと梯子に登っていた小学1年生も次第に慣れ、途中からは「もう、降りてきなさいよ。」と言われるまで、長くそして高く梯子に登って作業を楽しんでいました。

今回の作業で、剪定した枝は中学校で「輪かんじき」の材料になり、小枝や間伐した木は小中学校で地域の人を招いて行われる「交流焼き芋集会」で、薪として使われます。児童生徒並びに保護者に自然保護と木材利用を学ぶとても素晴らしい機会になりました。



植生や間伐・間引きの座学です。



間引きする木にお神酒を捧げます。



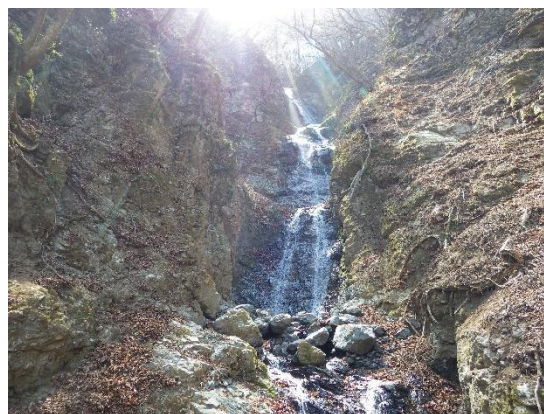
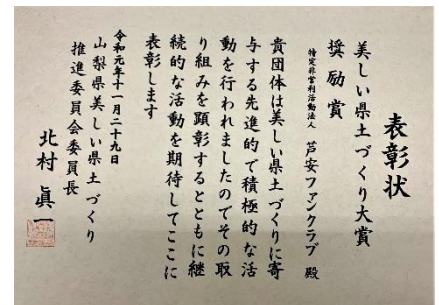
脚立や梯子に登って枝打ちをします。初めは怖がっていた1年生も、最後は、「もうやめちゃうの～」というほど楽しんでいました。



# 美しい県土づくり大賞 奨励賞受賞!

芦安ファンクラブ 中島 紫穂

2018年度に日本たばこ産業NPO助成事業にて実施した瀬戸千段の滝歩道再整備事業が、山梨県から美しい県土づくり大賞の奨励賞に選ばれ、表彰状を頂くことが出来ました。今回の整備のコンセプト、「地域の住民と一緒に整備を進めた」事が受賞の理由とのことでした。芦安地域の活性化に寄与する事がコンセプトの私達にとって、とても嬉しい受賞となりました。



## 新入会員紹介 青山海月さん

はじめまして。7月に入会した青山海月（みつき）と申します。静岡市で生まれ育ち、就職を機に山梨県に引っ越して来ました。何かを始めたいなと、思いついたのが登山。山岳会にも入会し、南アルプスや県内の山を中心に登って来ました。山岳会の先輩である中島紫穂さんの勧めもあり、芦安ファンクラブに入会させていただくことになりました。

3年前、初めて南アルプス（北岳）に登った時、自分の弱さとかちっぽけさや、山の美しさ、雄大さを感じ、山に来てよかったなと思ったのを今でも覚えています。それと同時にこの豊かな自然を守り、次の世代に繋げていきたいとも思いました。

また、私は医療関係の仕事もしており、山岳事故の方と関わる事もあります。少しでも山での事故が減るように医学的視点からの活動、また事故が起きたときの迅速な対応ができるようになりたいとも考えております。

まだまだ知識も経験も未熟者ですが、山の先輩方のご指導を受けながら、南アルプスの自然を守り、南アルプスを愛し、人としても成長していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

